

1 学校教育目標

- 心豊かで思いやりのある子ども
- 自ら進んで考え、工夫する子ども
- 健康でねばり強い子ども
- たがいに協力し、進んで実行する子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○学力を定着させる学校 ○豊かな人間性をはぐむ学校 ○体力・運動能力を高める学校 ○家庭・地域が協力し合う学校 ○組織的に教育活動を展開する学校
○児童・生徒像	○心豊かで思いやりのある子ども（あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子） ○自ら進んで考え、工夫する子ども（自ら考え、自ら学ぶ意欲を身につける子） ○健康でねばり強い子ども（健康で、我慢強く最後までやりとげる子） ○たがいに協力し、進んで実行する子ども（自分で考え自分で判断し自分で行動できる子）
○教師像	○プロ意識をもち、教育活動を生き甲斐と感じる教師 ○子どもと共に自ら伸びようと努力し続ける教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 児童について
 明るく素直で活発な児童が多い。肯定的な指導を行うことで、朝会や集会などでの集団行動時の規律が向上してきている。低学年での指導を手厚くすることで、学習規律や生活規律が整った学年・学級の構築が図れてきている。さらに多様な教育活動を通して、心を育て自己肯定感を高めること、自立させるための習慣化が課題である。
- 教職員について
 教職員全員で知恵を出し合い、学校経営、学年経営の視点で具体策をもって仕事を遂行していく体制が確立された。ベテランから若手までの全員が本校の諸課題について強い危機意識と改善意欲をもって「心は一つ」を合言葉に解決している。今年度もOJT制度、主任教諭研修制度を活用しながら若手教員からベテランまでそれぞれの力量に見合った人材育成を行っていく。
- 家庭・地域について
 学校全体の学習の場としての落ち着きや日常の教育活動の様子から学校への信頼関係が着実に深まってきている。さらに家庭に学校教育への理解と家庭で為すべきことへの協力を求めていく。PTA活動は、学校に愛情をもって協力する姿があった。よい校風が継続するように感謝の気持ちをもって連携していく。地域は、学校の成果を評価し、学校への応援を惜しまない。

重点的な取組事項－1 学力向上

- 数値目標 平成30年4月区学習定着度調査 区平均通過率 78.7%
- 実施結果 平成30年4月区学習定着度調査 花保小通過率 83.6%

数値目標を上回ることができた。これは担任、専科教員、特別支援教室教員、日本語指導教員、時間講師、そだち指導員、学習支援員等の全教員が真摯な努力を積み上げてきたこと、そして多くの手立てを共通に実施してきたことの相乗効果である。具体的には、SP表と個票の分析及び個別対策の時間を学年会に位置づけた。管理職と学年とのデータに基づく学力分析・対策会議及び面接を定期的実施し、児童個々に対する方策を練らせた。1月には、上学年担任が下学年担任に向けて「進級をふまえて今やるべきこと」連携学年会議を実施した。また、実際に授業の充実を図りながら、中休み、給食準備中、放課後等あらゆる時間を利用して既習事項の個別指導を行った。さらに管理職も全学年実施の漢字検定の採点や表彰、九九免許更新試験等で基礎・基本の習熟を徹底的に図った。「九九検定」については真に身に付けさせるために、新免許制度で実施した。希望者には「漢字検定」「数学検定」も実施した。本校の教職員は同僚性に優れ、共通行動がとれる教員集団である。平成31年度も数値の向上を図るが、教員の学力向上への意識と共通行動、各教員の技量等、後進の人材育成が課題となる。また、個別指導の時間の確保も課題となる。

重点的な取組事項－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

- 達成目標
 ・保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。

・花保中学校と小中連携教育を進め学力向上を図る。

○実施結果

保育園・幼稚園との連携

・保育園で「数の概念」や「平仮名」、「鉛筆の持ち方」等の研修を実施し、保育士に指導法を学ばせ、園児は学ぶ楽しさを体験できた。また、保護者向けに校長が講演を行い、入学前の不安を払拭するとともに、小学校教育について理解を図った。平成30年度は2園で校長講話を実施することができた。

・本年度、学区域に新規開設した保育園に積極的に働きかけ、連携を推進した。

・給食体験、図書室での読書体験、交流遊び等によって小学校進学への期待感を高められた。

花保中学校との連携

平成23年度からの足立区小中連携モデル校の取組みを継続して実施することができた。中学校は問題解決型の授業を目指し、努力し授業改善されている。中学校の学力定着度調査でもようやく連携の成果が数値となって表れてきた。足立区の中学校教員との各教科間の連携を深める必要がある。

重点的な取組事項－3 教師の指導力向上

○数値目標 管理職の授業評価 全員B以上

○実施結果 管理職の授業評価 全員B以上達成

これまで研究を深めてきた「算数」「国語」、「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開、「国語」では、言語活動の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。授業改善には足立区教科指導専門員の継続的な指導も効果があった。次年度も継続して指導力向上を図る。

重点的な取組事項－4 心の教育の充実

○数値目標 学校評価項目 道徳授業の充実 90% 明るく楽しい学校 95%

○実施結果 学校評価項目 道徳授業の充実 95% 明るく楽しい学校 97%

一人一人が自分自身のリーダーになり、自信をもって、実りある充実した人生を送れるようにするために、「リーダーインミー」を心の教育の柱として推進した。また、QU調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的を実施し、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし等で、児童の自己肯定感が高まってきている。心を豊かに育てるために、道徳授業を充実させただけでなく、城北特別支援学校小学部との交流、環境カルタ、百人一首、無言清掃などの取組を行った。朝のあいさつ運動には開かれた学校づくり協議会委員も定期的に参加した。全校朝礼で多くの表彰を実施し、児童の活躍を認め、結果を賞賛することで温かな学校風土の確立に努力した。サンクスウィークスでの家庭の協力も効果があった。また、東京パラリンピックの種目であるゴールボール応援校として東京都で唯一指定された。区のオリンピック・パラリンピックに向けたオレンジプロジェクトの拠点校としてオランダ選手とも交流した。選手との交流や競技体験で、スポーツを通した「共生社会」について学ぶことができた。31年度もそれぞれの手立てがマンネリにならないように効果検証をしながら、一層の心の教育を推進する。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	保育園・幼稚園・中学校との連携	○	○	○	○	○
3	教師の指導力向上	○	○	○	○	○
4	心の教育の充実	○	○	○	○	○

5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
足立区平均通過率と同水準を達成する。		78.7% (平成30年度区平均) 年度末90%		区学力調査84.3%と通過率の数値目標を達成した。 区平均通過率80.6%を超え、目標を達成した。5年連続で区の平均通過率を上回った。		全教員の努力の賜である。 6年全国学力学習状況調査、5年都児童の学力向上を図るための調査でも足立区、都、全国の平均正答率を上回った。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習 (パワーアップタイム)	全児童 国語 算数	毎週水 (漢字) 毎週木 (算数)	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 学習内容の復習・基礎学力の定着 【使用教材】漢字プリント、東京ベーシック診断シート・次へのステップ・その他計算等のプリント学習	東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。	年度末までに東京ベーシック診断シートで正答率100%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。	東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%	・基礎基本を繰り返し行ったことで、定着が図れている。 ・応用問題への取り組みも必要である。 ・下位層は、個々のレベルに合った基礎基本問題に取り組みさせることが必要である。	○
2 継続	朝学習 (パワーアップタイム)	全児童 国語	毎週火 (読書)	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 読書に親しむ。読む力を伸ばす。月に1回きょうだい学級での読み聞かせ交流を行い、相手意識をもって本を選び、読む機会を設ける。	保護者の学校評価における数値向上	全校児童が本に親しむことにより、読書を身近に感じさせる。 (年間の読書量を増やす。)	相手意識をもって本を選び、読み聞かせをすることを通して、本に親しむことができた。	・読書や読み聞かせを原則として週1回実施したことで、読書への興味関心が高まった。 ・1つのジャンルの本だけではなく、他のジャンルにも興味関心を広げさせたい。	○

3 継続	花保ステップタイム	全児童 国語 算数	毎週水 5校時	<p>【指導者体制】担任・副担任の専科教員</p> <p>【取り組みのねらい・目的】学習内容の復習・基礎学力の定着</p> <p>【使用教材】漢字プリント、東京ベーシック診断シート・次へのステップ・その他計算等のプリント学習</p>	東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。	年度末までに東京ベーシック診断シートで正答率100%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。	東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を繰り返し行ったことで、定着が図れている。 ・応用問題への取り組みも必要である。 ・下位層は、個々のレベルに合った基礎基本問題に取り組みさせることが必要である。 	○
4 継続	放課後学習	全学年 国語 算数	週1回	<p>【指導者体制】担任</p> <p>【取り組みのねらい・目的】学習内容の復習・基礎学力の定着が十分でない児童の個別指導を行う。</p> <p>【使用教材】漢字プリント、東京ベーシック診断シート・次へのステップ・その他計算等のプリント学習</p>	東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。	年度末までに東京ベーシック診断シートで正答率100%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。	東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導により、基礎基本の定着が図れている。 ・対象児童への指導は、今後も継続的に行っていく必要がある。 	◎
5 改善	放課後補習	全学年 国語・算数 学力調査 正答率30%以下の児童	個人面談期間	<p>【指導者体制】管理職・算数 少人数・専科教員・講師など</p> <p>【取り組みのねらい・目的】個々に必要な課題を担当と相談し、プリントなどで補充指導する。</p> <p>【使用教材】国語・算数のプリント学習。</p>	プリントを担当に見せて、理解の状況を伝える。	個々の課題のプリントで正答率10ポイント改善。	個に応じた指導を重ねることで成果が出てきた。個々の課題のプリントで正答できる問題が増えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・補習の指導者と担任との連絡を密に行い、課題を明確にして指導できた。(期間中は連日実施のため、毎日打ち合わせを行った。) ・個人・三者面談期間中に児童10名程度に対して指導者3名程度で個別指導を実施した。 	◎
6 継続	夏季チャレンジ教室	全学年 国語・算数 学力調査 正答率50%以下の児童各学年10名程度	夏季休業日中の10日間	<p>【指導者体制】全教員で分担</p> <p>【取り組みのねらい・目的】基礎学力の定着と学力調査結果から分かったつまづきを改善し、学力向上を図る。</p> <p>【使用教材】個々の課題に合わせたプリント・次へのステップ・学力調査の補充問題・夏休みのドリルなど</p>	夏休み終了後の確認テストを実施。	夏休み終了後の確認テスト正答率10%アップ	夏休み終了後テスト正答率10%上昇した。未習熟な学習に対して丁寧な指導を受けることで、学習しようという意欲を引き出すことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を中心として、個々の習熟度に合わせた内容を実施した。そのため、個々の理解の仕方に合わせながらつまづきを改善することができた。 	◎

7 継続	夏季自主学習教室	全学年 国語・算数 学力調査 正答率50%以上の児童	夏季休業日中の10日間	【指導者体制】全教員で分担 【取り組みのねらい・目的】児童一人一人が自分の課題に合わせて学習する時間を確保し、わからないときなどは指導助言する。 【使用教材】次へのステップ・学力調査の補充問題・夏休みのドリル、その他自分で用意した問題集など	夏休み終了後の確認テストを実施。	夏休み終了後の確認テスト正答率10%アップ	自分で課題を選択して学習しようという意欲を引き出すことができた。	・大多数の児童が自分で課題を選択し、学習(読書も含む)に取り組むことができた。 ・低学年の児童については、自分に合う課題を選ぶことが難しい児童もいるので、必要に応じて助言したり学校で用意したプリントに取り組ませたりした。	○
8 改善	家庭学習	全児童 学年の取組状況により順次実施	毎日	【指導者体制】各学年担任が共通取組と評価 【取り組みのねらい・目的】4月当初、児童に「家庭学習の手引き」を渡し家庭学習の仕方について指導する。また、保護者会で保護者にも「家庭学習の手引き」を渡し説明して協力を依頼。	宿題提出状況を担任が記録。	宿題提出率90%目標	宿題提出率85%	・継続して提出しない児童について、各家庭に協力をお願いしているが難しいことが多い。主に担任が休み時間や放課後等に取り組ませる中で学力定着を図っている。	○
9 改善	かけ算九九検定免許証制度	2学年以上の全児童	12月～2月	【指導者体制】検定者は、管理職・算数少人数担当2名・学習支援員1名。指導は、担任と算数少人数担当者。 【取り組みのねらい・目的】学習の基礎となる九九を習得させるために100秒以内で暗唱させる。各学年2週間のうちに検定を受ける。ゴールド免許証は、1回での合格者に発行し、翌年度まで有効。普通免許証は、翌9月まで1ヶ月ごとにチェックし更新させ、完璧に覚えさせる。	学力向上主任と担任が連携して記録し、管理職に提出する。	全員合格。	3年生以上の合格率は98%(2/4現在) ※2年生は2月から検定を開始する	・九九の定着が図られている。 ・確実に定着しているとは言い難い児童に関しては、2ヶ月に1回の九九チェックに合格させることで定着率を高めることができた。 ・期間に合格できなかった児童は、年度末までに必ず合格させる。	◎
10 継続	パンダとゴマちゃんからの挑戦状漢字テスト(校長と副校長)	全児童	毎月1回(4月・10月・3月を除く)	【指導者体制】管理職・学習支援員・担任 【取り組みのねらい・目的】5・6・7・9月は前学年の漢字復習、11・12・1・2月は現学年の漢字復習をして、月1回確認テストを行い、基礎学力の定着を図る。 【使用教材】プリント教材	全問合格した児童に毎回賞状を渡す。	通過率90%目標	通過率80%	・習得した漢字を定着させるために、既習漢字は日常的に使えるようにしていくことを児童に意識させる必要がある。	○

1 1 改善	春休みだよ！ パンダとゴマちゃんからの挑戦状	2学年以上の全児童	年度当初	【指導者体制】管理職・担任 【取り組みのねらい・目的】 春期休業中に、前学年度の復習を家庭で行わせる。前期のスタート直後にテストを実施し、定着度を確認する。 【使用教材】学力調査問題	80%以上の児童に賞状を渡す。	通過率85%目標	通過率80% 前学年の学習の定着を図ることができた。	・個々の結果を分析することが重要である。	○
1 2 改善	児童理解及び学力向上対策会議	全児童	年度当初 5月 7月 10月 1月	【指導者体制】管理職・学力向上委員長・担任 【取り組みのねらい・目的】 年度当初に、前担任から現担任へレクチャーを実施。調査結果については学年ごとに会議を実施し、個の学力状況の把握と分析及び対策を行う。1月には上学年から下学年担任に新年度に向けて、学力向上に関わるレクチャーを実施する。	10月の再テスト	通過率90%目標	進級学年の担任から下学年の担任に主に学力向上に関して、始業式までにやっておくべきことのレクチャーを実施した。助言を参考に残りの3ヶ月の具体的手立てを考え実践した。	・2月定着調査の個々の結果を分析し手立てを講じたことで一層の定着が図れた。	◎

重点的な取組事項－2 保育園・幼稚園・中学校との連携							
今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題	達成度
保育園・幼稚園・中学校との連携を密にし、入学時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。		幼保中と連携して教育を進め、下記の2項目を達成する。		保育園・幼稚園との連携 ブロック代表校相互にやるべきことを実践できた。 花保中学校との連携 中学校の授業改善に寄与できた。		今後ともそれぞれとの連携を深めていく。	○
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策		実施結果		コメント・課題	達成度
花保中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業力を高めるための研究授業の実施 ・小学校の「外国語活動、外国語科」から中学校につなぐための情報交換 ・「自立」に向けた共通の土壌づくりができる。 ・体験・交流活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒の学力定着度の情報交換 ○情報交換・調整会議（月1回の実施） ○授業研究の相互実施と研究協議会参加 ・年間6回（内容） 研究授業 6回（小3回 中2回） 全体会2回 ○生徒会学校説明会、合奏団交流 	<ul style="list-style-type: none"> ○花保中学校の教員が、自らの研究授業で授業改善しようとする意欲が見られた。中学校の教員相互の関係が良くなっている。 ○花保中学校の区の学力調査での英語の数値が下落している。 ○小学校「リーダーインミー」の研究発表会に中学校教員が参加したことで、共通指導への道筋ができた。また卒業生が落ち着いて学習に取り組んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の中学校の学力調査の結果を期待したい。 ・管理職を含めた教職員相互の信頼関係が深まった。連携をスムーズ進めることができている。 ・「リーダーインミー」について進学後も共通指導化させたい。 	○	

<p>保育園・幼稚園との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑に小学校生活をスタートすることができ、4月中に小学校生活に慣れる。学習規律や生活規律を守ることができる。 ・平仮名が読め、正しい鉛筆の持ち方で、正しい筆順で自分の名前が書ける園児を増加 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校スタートカリキュラム実施 ○4月入学時実態調査の公表 ○連携保育園・幼稚園 <ul style="list-style-type: none"> ・卒園児状況参観（5月） ・校長講話（園保護者対象） ・交流研修会の実施 ○文字研修支援のための教員派遣 ・情報交換会の実施 ・プール体験（見学） ・給食体験 ・図書室体験 ・1年生との交流遊び ・運動会練習見学 ・音楽会への招待 ・本校での運動会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブロック代表校として、9ブロック全体の幼保小連携を推進できた。特に姿勢保持について幼保小共通課題として取り組んだ。 ○幼稚園との教員交流ができた。 ○園児に「正しい鉛筆の持ち方」を指導した。また小学校の1日を紹介し、学校の1日の流れをイメージさせ、自立への第一歩とした。 ○小学校での給食体験、図書室での読書体験、水泳指導や音楽会の見学、交流遊び等によって小学校進学への期待感を高められた。 ○園の保護者に出席し校長講話を実施し、生活規律の大切さを伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びにつながる生活習慣」を身に付けられるように連携保育園を支援する。 ・ブロックの全ての保育園、幼稚園、小学校が共通指導することで効果ができる。 ・保護者に校長が接続期の重要なポイントを話し、保護者の役割について啓発していくことも重要である。 	<p style="text-align: center;">◎</p>
--------------------	--	--	---	---	--------------------------------------

重点的な取組事項－3		教師の指導力向上			
今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
教師一人一人の指導力の向上	教師一人一人の指導力の向上（OJTガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成）	授業についての保護者評価が教員に対して肯定的である。	ベテラン教員の指導、各教員の向上心、校内研究授業によって全教員の授業力が着実に向上した。	<p style="text-align: center;">◎</p>	
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
資質向上	都OJTガイドラインで求められている経験年数、職層に応じた目標の達成 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎形成期の目標達成 ・職層に応じた職務の遂行 ・共通行動 	<ul style="list-style-type: none"> ○校長レクチャーの実施（年度当初） ○転入・新規採用教員研修の実施 ○自己申告書・面接の重視 ○学力対策レポートの作成と面接 ○若手教員養成塾の実施 10回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初の若手教員による転入教員・新規採用教員研修によって若手は自信を付け、転入者は本校の課題をいち早く理解した。 ○適宜行った管理職による学年面接と個人面接に効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベテランだけでなく、若手教員も重要な役割を担うことで自信を深めた。 ・社会性を身に付けさせる研修が今後も必要である。 	<p style="text-align: center;">○</p>
指導力・授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の基本の確立 ・統一された学びのスタイルの確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○足立スタンダードの習得 算数・国語 ○学校及び学年共通指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職による授業評価 新規採用教員以外は平均B以上達成 ○保護者授業参観アンケート「改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業においては、全教員が足立スタンダード型の授業行うことがで 	<p style="text-align: center;">◎</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・管理職による授業評価 4段階B以上 全員達成 ・保護者授業参観アンケート 「改善を要する」 3%以下 ・学校評価項目 90% 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科指導専門員の指導・助言 ○授業分析 板書撮影と逐語記録による授業分析 ○管理職の授業評価と指導・助言 随時 ○区小研への全員参加 	を要する」ほぼ0% ○学校評価 授業に関する肯定的評価が94%	きている。 ・区教科指導専門員が若手教員に的確かつ継続的な指導を行い、授業力改善に大きな成果をあげた。	
---	--	---------------------------------------	--	--

重点的な取組事項－4		心の教育の充実				
今年度の成果目標		達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
児童一人一人の心の成長		学校評価による数値の向上	道徳授業の充実 96% 前年比+1-0 明るく楽しい学校 98% 前年比+0.7		大変喜ばしい。次年度も継続して取り組む。	◎
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策		実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育の充実 道徳授業の充実 いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> ・QU調査の2回目の調査結果での「学級生活満足群」数値割合の向上 ・学校評価で「道徳活動に力を注ぎ、公開授業を行ったり、子どもに思いやりの心や規範意識を育てたりしている。」90% 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校朝会での講話と表彰 ○QU調査の2回実施と分析 ○「リーダーインミー」教育の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会の実施 ○道徳授業の充実 ○東京オリンピック・パラリンピックエデュケーションアワード校の活動 ○足立区オレンジプロジェクトへの参加 ○百人一首の暗誦と区大会への参加 ○いじめ防止にかかわる児童会活動 ○城北特別支援学校児童との交流 ○家庭と連携したサンクスウィークスの実施 		<ul style="list-style-type: none"> ○道徳授業の充実 96% ○明るく楽しい学校 98% ○「リーダーインミー」の教育研究発表会を実施し、参観者の方に花保小の取組を高く評価していただいた。 ○サンクスウィークを実施し、児童の良いことへの行動評価を行い、それによって規範意識と自己肯定感を高めることができた。新たに家庭と児童相互も実施した。 ○いじめ防止対策委員会を随時実施し機能させた。「いじめアンケート」を実施するなど年間を通して「いじめ防止」の指導を行った。 ○代表委員会、広報委員会による児童自らの「いじめ防止キャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・「リーダーインミー」を心の教育の柱として、全教職員で実践した。また研究発表会を実施し高評価を得たことで、児童も教職員も成就感を得た。 ・この研究及び多くの手立てによって確実に児童の非認知スキルを高めることができた。 ・研究を通して、「ポーズ」「ゴール」「信頼貯金」「シナジー」の共通ワードが生まれた。次年度も継続して生かしていく。 	◎

		・サンクスカードプレゼント ○児童の教育目標と達成するための手立て「17(いいな)宣言」の浸透	ン」を実施した。		
あいさつの徹底に取り組む	学校評価で「子どもが明るく楽しく生活する雰囲気になっている。」 95%	○あいさつキャンペーンの実施 ○保護者、地域への広報活動 ○あいさつボランティアの活動 ○開かれた学校づくり協議会の協力	○明るく楽しい学校 98% ○有志児童からなるあいさつボランティア隊が活躍した。	令和2年度も本校の特色として重点的な取組としたい。	○
特別活動の充実	・特別活動のねらいをふまえた行事や集会、学級活動などを行う。	○児童の活躍の機会を増やし、結果を賞賛することで自己肯定感を高める。	○一昨年度からの花保小学校愛着大作戦が継続展開された。	今後とも児童の活躍の場を増やしていく。	◎
無言清掃	無言清掃の定着	○強化週間の実施	○全学級で実施している。	習慣化させる。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上

○数値目標 平成31年4月区学習定着度調査 区平均通過率 80.6%

○実施結果 平成31年4月区学習定着度調査 花保小通過率 84.3%

目標数値を上回ることができた。8年連続平均通過率を向上させ、5年連続区の平均通過率を上回った。これは担任、専科教員、特別支援教室教員、日本語指導教員、時間講師、そだち指導員、学習支援員等の全教員が真摯な努力を積み上げてきたこと、そして多くの手立てを共通に実施してきたことの相乗効果である。具体的には、SP表と個票の分析及び個別対策の時間を学年会に位置づけた。管理職と学年とのデータに基づく学力分析・対策会議及び面接を定期的を実施し、児童個々に対する方策を練らせた。1月には、上学年担任が下学年担任に向けて「進級をふまえて今やるべきこと」連携学年会議を実施した。また、実際に授業の充実を図りながら、中休み、給食準備中、放課後等あらゆる時間を利用して既習事項の個別指導を行った。さらに管理職も全学年実施の漢字検定の採点や表彰、九九免許更新試験等で基礎・基本の習熟を徹底的に図った。「九九検定」については真に身に付けさせるために、新免許制度（ゴールド免許と普通免許）で実施した。希望者には「漢字検定」「数学検定」も実施した。本校の教職員は同僚性に優れ、共通行動がとれる教員集団である。令和2年度も数値の向上を図るが、教員の学力向上への意識と共通行動、各教員の技量等、後進の人材育成が課題となる。また、個別指導の時間の確保も課題となる。

重点的な取組事項－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

○達成目標

- ・保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。
- ・花保中学校と小中連携教育を進め学力向上を図る。

○実施結果

保育園・幼稚園との連携

- ・保育園で、「鉛筆の持ち方」「姿勢保持」「学校生活の流れ」等の指導を小学校の教員が行い、園児は学ぶ楽しさを体験できた。また、保育園保護者会で校長が講話を行い、入学前の不安を払拭するとともに、小学校教育について理解を図った。職員交流研修は新たに私立幼稚園とも実施することができた。
- ・本年度、幼保小連携ブロック代表校として、ブロック全体の幼保小連携を推進できた。

・小学校での給食体験、図書室での読書体験、水泳指導や音楽会の見学、交流遊び等によって小学校進学への期待感を高められた。

花保中学校との連携

平成23年度からの足立区小中連携モデル校の取組みを継続して実施することができた。中学校は問題解決型の授業を目指し、努力し大きく授業改善されている。ただ、中学校の2、3年生の区学力定着度調査での成果が表れていないことが課題である。

重点的な取組事項－3 教師の指導力向上

○数値目標 管理職の授業評価 全員B以上

○実施結果 管理職の授業評価 全員B以上達成

2年間教科研究を休止し、「リーダーインミー」に特化して研究を行ってきた。しかしそれまでに研究を深めてきた「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開、「国語」では、言語活動の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。授業改善には足立区教科指導専門員の継続的な指導も効果があった。次年度もOJTも含めて継続していく。

重点的な取組事項－4 心の教育の充実

○数値目標 学校評価項目 道徳授業の充実 90% 明るく楽しい学校 95%

○実施結果 学校評価項目 道徳授業の充実 96% 明るく楽しい学校 98%

一人一人が自分自身のリーダーになり、自信をもって、実りある充実した人生を送れるようにするために、「リーダーインミー」を心の教育の柱として推進した。また、QI調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的に行い、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし等で、児童の自己肯定感が高まってきている。心を豊かに育てるために、道徳授業を充実させただけでなく、城北特別支援学校小学部との交流、環境カルタ、百人一首、無言清掃などの取組を行った。朝のあいさつ運動には開かれた学校づくり協議会委員も定期的に参加した。全校朝礼で多くの表彰を実施し、児童の活躍を認め、結果を賞賛することで温かな学校風土の確立に努力した。サンクスウィークスでの家庭の協力や児童相互の認め合いも効果があった。また、東京オリンピック・パラリンピックのエジュケーションアワード校として東京都教育委員会から指定し活動した。区のオリンピック・パラリンピックに向けたオレンジプロジェクトの拠点校としてオランダ選手とも交流した。選手との交流や競技体験で、スポーツを通じた「共生社会」について学ぶことができた。令和2年度もそれぞれの手立てがマンネリにならないように効果検証をしながら、一層の心の教育を推進する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

○本校の教育活動にご理解、ご協力いただき心から感謝しています。創立50周年に向けた学校ビジョンNext10yearsを掲げ、これからの花保小学校のあるべき姿を提案し実践してまいりました。本年度は「リーダーインミー」を教育の柱として位置づけ、令和2年1月22日に研究発表会を実施し、東京都内だけでなく、大阪府、山形県、宮城県、神奈川県、埼玉県、千葉県の先生方も参観され、私どもの教育実践を高く評価していただきました。

足立区学力定着度調査、国調査、都調査においても、数値的な結果で学力向上の成果をお示しすることができました。また、保護者の皆様が、PTA活動や行事等を通して、毎年毎年より協力的にご支援していただけるようになってきました。心から感謝申し上げます。このように皆様方が「大人としてのお手本」を見せてくださっている姿が常に花保小学校にあることが、本校の目に見えない校風になっていることを嬉しく思います。本校はまだまだ成長できる学校です。これからも、一人一人の子どもに寄り添い、そのよさと可能性を認め伸ばすことをすべての教育活動の根幹とし、子どもが分かる楽しさと、できる喜びを十分に感じる授業改善を目指してまいります。また、豊かな人間性の育成のために努力して参ります。これからも保護者の皆様、地域の皆様と一緒に子どもたちの成長を考え合い、三者が一体となった教育を進めたいと考えております。そして、保護者の皆様には、花保小学校に通わせていることへの誇りがもてる学校、在校生にとっては学校生活に希望をもち「わくわくする学校」、卒業生にとっては花保小学校を卒業したことへの誇りがもてる学校にいたしましょう。令和2年度もこれまで同様に本校の教育活動に対してご支援をお願い致します。

(3) その他(学校教育活動全般について)

学校での生活規律や学習規律の徹底を教職員全員で取り組み、思いやりのある心を育て学力をしっかり身につけさせるように真剣に努力した。

具体的には、

- ① 「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する。そして責任をとる。」ことの大切さの呼びかけ。
- ② 朝会では、指示や号令なく整列させ、表彰の機会を多くする。
- ③ 一斉放送の際に全児童が全行動を停止して放送を聞く態度の確立
- ④ 廊下歩行、右側歩行の徹底 「廊下はね、走っちゃだめだめ 花ほっ子」
- ⑤ 自分で考えて学校を綺麗にする「無言清掃」
- ⑥ 「Q U調査」を年2回実施し、あたたかな人間関係づくりを行う。
- ⑦ 人のために役立つ喜びを実感させる「サンクスウィークス」
- ⑧ 思いやりのある言葉「ふわふわ言葉」の奨励と「ちくちく言葉」の撲滅
- ⑨ 教員も子どもたち同士も「おまえ」とは言わない。
- ⑩ 名前を呼ぶときは、教員も子どもたち同士も基本的に「さん」付けで
- ⑪ 自己肯定感を高め、生きる力を育む「リーダーインミー」の推進
- ⑫ みんなで考えたわたしたちの学校目標と「17宣言(いいな宣言)」に基づく行動
- ⑬ 朝の「あいさつ運動」と子ども同士のあいさつの奨励
- ⑭ 学習により集中させるための花保教室環境スタンダードの全教室展開(ユニバーサルデザイン)
- ⑮ 学習にふさわしい服装や身だしなみ
- ⑯ 学習に必要なものだけを机上に用意する約束 えんぴつ3本と消しゴム1つ
- ⑰ 朝のスタートを円滑にするための登校時間の設定 8時から8時10分まで
- ⑱ 区の学力調査結果の分析と基礎学力定着のための復習テスト
- ⑲ 帰りの会後に行う補習の実施
- ⑳ 家庭学習の充実

など色々取り組んでいる。保護者に対しては、「自らのリーダーシップとシナジーの創造」をテーマに学校をマネジメントすることを年度当初に知らせた。

保護者の大多数は学校の現状に満足されており、協力的である。

非認知スキルを高める「リーダーインミー」の研究で、研究を通して、「ポーズ」、「ゴール」、「信頼貯金」、「シナジー」の共通ワードが生まれた。次年度も継続して生かしていく。また児童の主体的な活動である「花保小学校愛着大作戦」が代表委員会によって継続されている。児童が考えた学校「わたしたちの学校目標」の達成を目指し、具体的な手立てである「17宣言(いいな宣言)」をこれからも進めていく。

まだまだのところもあるが、これらの教育活動を通して一人一人の児童は成長し、数値では測れない全体としての学校力も向上していると考えている。さらによりよい学校にするために令和2年度の「花保小学校」を構想していく。